

# まちをつないだ華麗なアーチ 思い出の旧豊平橋

語り継ぎたい

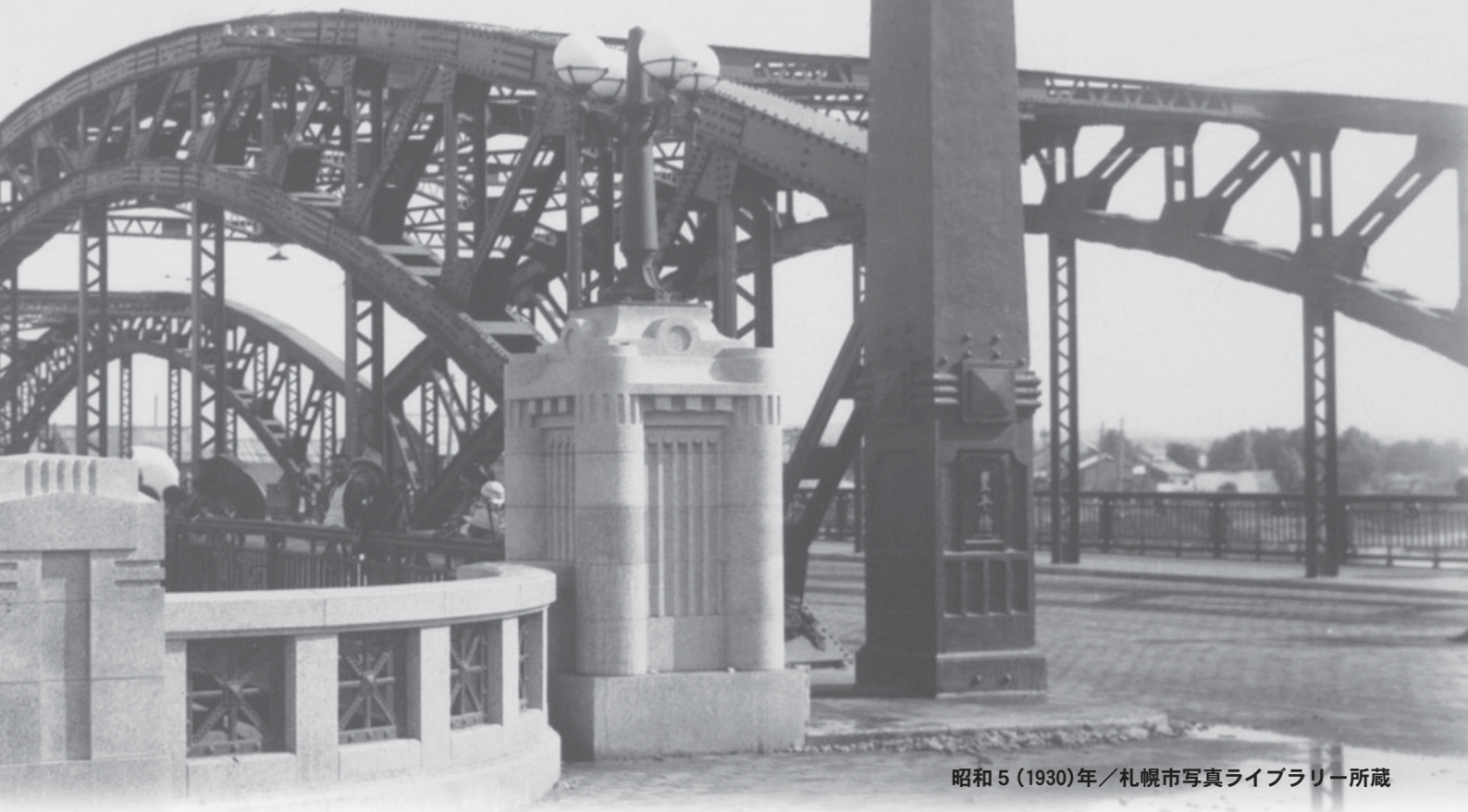
## 豊平

の歴史

～第3回～

豊平区と都心部を結ぶ橋、豊平橋。昭和41（1966）年に、現在の姿になる前は、華麗な三連アーチの橋が架けられていました。

今月は、北海道三大名橋ともいわれ、今なお、人々の心に強く面影を残す旧豊平橋を、当時を良く知る方の思い出とともに、ご紹介します。



昭和5（1930）年／札幌市写真ライブラリー所蔵

### 渡し守の時代

安政四（一八五七）年、当時の幕府の命により、現在の小樽市銭函から千歳・勇払に至る札幌越新道さっぽろこしんどうの開削が始まりました。後の国道36号となるこの道路は豊平川を横切っていました。まだ橋は無く、兩岸に渡し守を置いて人や物を運んでいました。札幌市内初の和人居住者の一人と言われる志村鐵一しむらてついちは、右岸の渡し守としてこの地に定住し、豊平の歴史が始まりました。

### 初めての橋

初めて橋が架けられたのは明治四（一八七一）年のことでした。丸太造の2本の橋でしたが、当時の豊平川の流れは速く、あつと言う間に流されてしまいました。その後、「橋を架けては流される」の連続で、一年に何度も架け直した年もあったようです。

### 異国の技術を導入

度重なる落橋対策として、明治八（一八七五）年、アメリカ人技師の設計による木造の本格的な橋が完成しましたが、まだ堤防のなかった豊平川の洪水には勝てず、わずか2年ほどで流されてしまいました。明治一一（一八七八）

年には、同じくアメリカ人技師が設計した橋が架けられ、補強を加えながらも10年間にわたり使用されました。

### 美しい永久橋

その後、何度かの架け替えを経て、大正二二（一九一四）年、永久橋として登場したのが旧豊平橋です。藻岩山を背景とした美しい姿は、旭川の旭橋、釧路の旧幣舞橋とともに、北海道三大名橋といわれました。また、中央には線路が敷かれ、巨大な橋を電車が渡る風景は、当時の札幌名物の一つでした。この橋が完成したころ、交通手段は馬車を中心でしたが、時代とともに自動車主流となり、交通量も増えていきました。そして、昭和四〇（一九六五）年に国道の拡幅に伴い、惜しまれながらも解体されました。



大正13年8月26日の渡橋式には、約6万人の見物客が訪れました。